

# I 調查概要



## 目 的

白山地域は白山国立公園に属し、1981年にはユネスコの「人間と生物圏事業計画」(MAB)の生物圏保存地域に指定されるなど、豊かな動植物相を有する我が国を代表する生態系が成立している地域の一つである。

特に、石川県と岐阜県の県境に広がる高山帯は、日本列島の西限に位置し、孤立し面積が狭いという地理的特徴を有しているため、自然環境の改変に対して特に脆く、希少な動植物種も知られており、生物多様性保全の観点からきわめて重要な地域である。

本調査は、白山地域の生態学的特性を特に有する高山帯を対象として、その生態系の構造を把握することを目的として実施する。

## 調査地域

石川県、岐阜県の白山山頂及びその周辺地域(図参照)

## 調査内容

### (1) 生物種目録

文献調査及び現地調査によって、下記の生物種について行う。

哺乳類、繁殖鳥類

高等植物、きのこ類

### (2) 特定動植物種の生息・生育環境調査

#### ア カヤクグリの生息環境

高山帯・亜高山帯の多種の自然環境(ハイマツ林・草原・オオシラビソ林・ダケカンバ林など)のなかで、どの環境に多く生息しているかを調査する。

#### イ ネズミ類(ネズミ目・モグラ目)の生息環境

ハイマツ帯・オオシラビソ帯での生息種と密度を調査し、ハイマツ林・オオシラビソ林の植生構造の違いとネズミ類の分布・生息動態の関係を調べる。

#### ウ オコジョの生息環境

高山帯と亜高山帯におけるオコジョの生息状況を調べ、オコジョの生息環境を調べる。

#### エ ハイマツの生育環境

ハイマツの生育環境を地形特性(斜面方位・傾斜角・雪線分布など)から明らかにする。

#### オ ラン科植物と訪花昆虫

ラン科植物に訪れる昆虫類の花粉媒介の仕組みを調べる。

### (3) 植生変遷史

高山帯の代表的平坦地において、ほぼ1万年前以降に堆積した泥炭層に含まれる花粉化石を分析し、植生の変遷史を調べ、高山帯の成り立ちについて考察する。

### (4) 自然環境調査

#### ア 周氷河地形

周氷河地形の形態・分布を明らかにし、代表的なものについて地中温度・移動量を測定し、形成過程を調べる。

#### イ 気象観測

代表的地点において、植物の生育環境を考察するため、温度・土壌水分・雪圧を継続的に測定する

## 調査結果の概要及び来年度の調査について

### (1) 生物種目録

哺乳類 17 種類・鳥類 18 種類・高等植物 361 種類・きのこ類 92 種類の目録を明らかにした。来年度は、文献調査・現地調査によって補足していく。特に、鳥類については、繁殖期の調査(6~7月)を重点的に調査する。また、きのこ類は、属段階で止まったものが約 50 種類ある(今回は未記載)。このなかから白山の固有種が特定できる可能性もある。

### (2) 特定動植物の生息・生育環境調査

特定動植物の生育・生息環境調査は、今年度の調査で新たに確認できたものがあつた。カヤクグリについては、生息選好度の高い環境(ハイマツ、低木林)が判明し、ネズミ類は高山帯で初めて確認された種(アズミトガリネズミ)があつた。ハイマツは、ハイマツの生息と密接な関係にある残雪について、①標高 2,200m から 2,500m の範囲、②傾斜角 10~50° の範囲、③傾斜方位 N、NE、E、SE、S 方向に多いことが明らかになった。来年度は、調査時期や調査地をかえ、対象種の生育・生息環境を明らかにする予定である。

### (3) 植生変遷史調査

泥炭層・火山灰層の層序の再検討を行った。結果、3つの泥炭層があり、その中に 16 層のテフラが識別された。来年度は、調査地を広げ層序を確立させ、泥層中の花粉化石群から完新世の植生史(およそ 1 万年以降)を明らかにしたい。

### (4) 自然環境調査

周氷河地形は、10ヶ所の階状土の分布地をあきらかにし、新たな分布地も発見することができた。この階状土について、礫質階状土と植被階状土の2つのタイプ分けを行った。来年度は、

形態・分布の特徴を明らかにするとともに今年度設置した観測機器のデータから形成過程を解明していく。気象観測は、温度・降水量・日射量・土壌水分・雪圧について観測を開始した。夏季の旬別降水量は、山麓の白峰の2倍前後であった。現在も観測は継続中であり、来年度は2年間の観測結果をまとめたい。

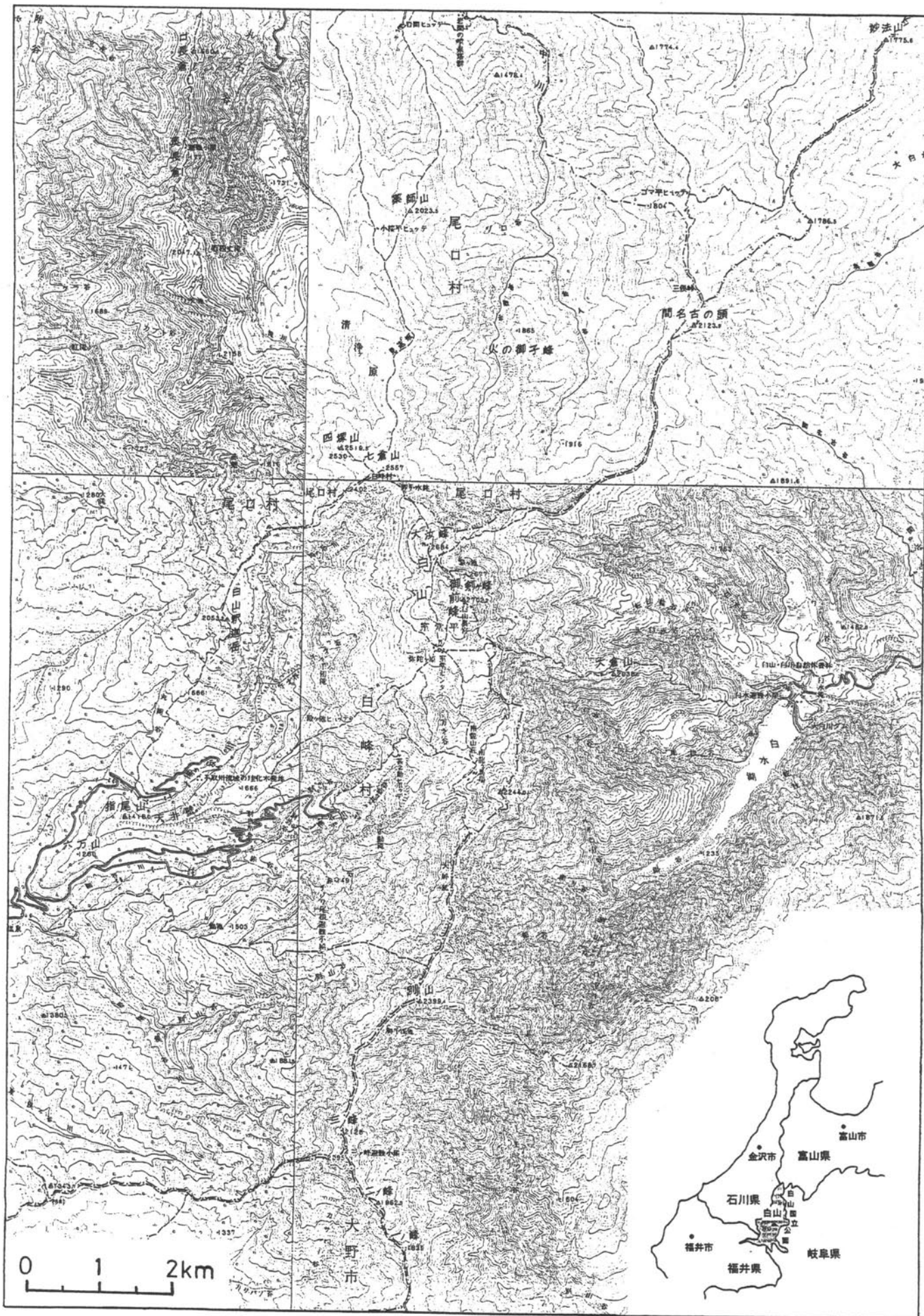


図 調査対象地域

建設省国土地理院発行 5 万分の 1 地形図「白山」、「白川村」、「白峰」、「越前勝山」図幅を使用。